

平成30年度/31年度役員選挙 応募者リスト（全国区選出理事以外）

※各役職応募順

役職	定員	応募者	所属	所信表明
北海道支部選出理事	1	西川祐司	旭川医科大学病理学講座腫瘍病理分野	この度、第2期目として地方区選出理事（北海道地区）に立候補させていただきたいと存じます。この2年間、北海道支部の皆様方のあたたかいご協力により、なんとか無事に務めさせていただくことができました。心より感謝申し上げます。引き続き2年間、日本病理学会と北海道支部の橋渡し役として、標本交見会、病理談話会、病理夏の学校を中心とした支部活動に貢献させていただくことができれば幸いです。特に来年は、北海道大学 笠原正典先生を会長として札幌で第107回総会が開催される特別な年であるとともに、標本交見会や病理談話会の50周年の節目を祝した行事が計画されております。今後も診断病理と実験病理の調和という北海道支部の良さ伝統を育み、より多くの若い世代が病理を目指すよう努力したいと思っております。皆様のご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。
東北支部選出理事	1	菅井有	岩手医科大学医学部病理診断学講座	日本病理学会東北支部の役割としては若手病理医の育成と研究推進が重要と思います。前者に関しては、現在長沼支部長のご指導のもと確実に成果を上げつつあり、今後もこの路線を堅持していきたいと思えます。病理診断の領域においては診断内容の精緻化が進んでおり、支部としても各県で独自に行われているセミナーの周知化など会員相互の情報共有を徹底していきたいと思えます。一方後者も我々の重要な使命と考えています。特に若い病理医には基礎研究の重要性を再認識するよう訴えたいと思えます。最後に病理学教育も病理学会の重要なテーマの1つです。医学教育が変革期にある現在、病理学教育について議論することは支部にとっても有意義と思えます。私は東北支部を全員参加のより活力のある場にしていきたいと思えます。私自身未だ未熟な人間ですが、精一杯東北支部の発展のために尽力したいと思えます。どうかご支援、ご協力を心底よりお願い申し上げます。
関東支部選出理事	2	宇於崎宏	帝京大学医学部病理学講座	病理医には日々の診断症例、剖検例が最も重要です。私はこれまで、個々の症例を大切にしつつ、卒前・卒後教育や研究、学会活動にも携わって参りました。病理情報ネットワークセンター管理運営委員長、剖検情報委員長、情報セキュリティ委員長、広報委員などを務めて参りました。学会での交流、議論は、症例の理解、個々人の研究活動にも活力を与えてくれるものです。今後は関東支部および学会全体の通常運営に加え、データの活用、成果の還元にも更に力を注ぎたいと考えております。これまで、剖検情報やパワーポイントスライドでデータベースに関わって参りましたが、これらの活用に一層の力を入れたと共に、皆様への広報・支援にも一層、注力して参ります。情報環境の整備は人材育成や研究交流にも役立ち、次の時代の病理学に繋がっていくものと考えます。病理学の発展に微力でも貢献したいと考えております。ご支援いただきますよう、お願い申し上げます。
		大橋健一	横浜市立大学医学部・大学院医学研究科	この度関東支部担当理事に立候補させていただきました。私はこれまで医療業務、病理標榜科に関する仕事（医療業務委員会、診断体制委員会）、男女共同参画に関する仕事（企画委員会、男女共同参画委員会）、人材育成に関する仕事（人材育成委員会、若手リクルート委員会）、専門医制度に関する仕事（専門医制度運営委員会、試験委員会など）に従事してきました。特に若手のリクルートには思い入れがあり、夏のレジナビフェアには学会を代表してずっと参加しています。関東支部は多くの会員を抱える大支部ですが、比較的病理医が集まっている地域とそれ以外では状況に違いがあります。円滑な支部会の運営、支部会の充実化はもちろんですが、夏の学校などを通して学生、研修医に対するリクルート活動、病理医が不足している地域で働く先生方のサポート体制の構築が重要であると思えます。関東支部の発展に力を注ぐ所存ですので、ご支持の程よろしく申し上げます。
中部支部選出理事	1	中村栄男	名古屋大学大学院医学系研究科	病理学会、また中部支部のさらなる発展のために継続して、誠心誠意、尽力いたす所存でございます。
近畿支部選出理事	1	横崎宏	神戸大学大学院医学研究科病理学講座	私は平成14年4月より近畿支部に所属し、爾来支部幹事ならびに副支部長（学術委員長）を歴任して参りました。その中で、支部学術集会や支部夏の学校の企画を通して、近畿地区における病理医・病理学者を志望する若い医師・歯科医師を増やすことに尽力して参りました。今回の立候補にあたり、これまで15年間の支部活動の経験をふまえ、支部構成員のニーズに迅速に対応した学術集会や若手リクルート企画、コンサルテーションシステムの構築等を実施したいと考えています。また、日本病理学会倫理委員会委員長の経験をもとに、昨年度より開始された日本病理学会AMED研究開発事業「AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像（WSI）の収集基盤整備と病理支援システム開発」での近畿地区分担事業における倫理面のサポートも積極的に行いたいと考えています。
中国・四国支部選出理事	1	森谷卓也	川崎医科大学病理学2	この度3期目の中国・四国支部長に立候補させていただきました。過去4年間、支部会員の皆様のご理解とお力添えを賜り、誠にありがとうございました。役員・委員・支部会員の皆様のご尽力のもと、会議の整理、支部会（スライドカンファレンス）の開催マニュアルや演題登録システムの充実、新専門医制度への対応が可能な講習会の整備、病理若手の会設立と顕彰制度の策定などに取り組んでまいりました。また、AMED事業への支部としての協力体制を確立しつつあります。次の2年間では特に、専門医制度が本格開始となります。第64回秋季特別総会（呉市）も開催されます。また、病理夏の学校が間もなく3巡目となりますので準備が必要です。病理学ならびに口腔病理学の卒前卒後教育・診療・研究が更なる充実と発展を遂げるために、本部との橋渡しや情報発信を含め、誠心誠意努力致したいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。
九州・沖縄支部選出理事	1	鍋島一樹	福岡大学医学部病理学講座・病理部	前任の横山支部長より引き継いでやってまいりました。支部活動は順調ですので、引き続き、活発になってきた「若手病理医の会」の活動をサポートし、支部ホームページの充実、ティーチングファイルのupdate、AMED事業への参画に取り組み、例年通り年6回のスラコ、年1回の病理集談会、年2回の学術講演、年1回の病理学校開催の継続・充実に努めたいと思えます。
口腔担当理事	1	仙波伊知郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	これまでの歴史と現状を踏まえ、また、異なる領域間の連携により、将来を担う多様な人材を育成する事が大切だと思います。近未来を切り拓く人材は既に存在し、彼らのためには、少しでも直ちに現状を改善することが求められます。また、中長期の将来を担う人材のためには、夢と希望の基盤としての現在を整備する必要があります。そこで、以下に今期中に具現化すべき行動目標を掲げます。1. 口腔領域の病理診断の精度向上を図るため、口腔病理専門医制度運営委員会の活動を通じ、口腔病理専門医制度の整備や研修内容を充実します。2. 口腔領域の病理学研究の促進を図るため、学術大会企画や情報交換機会等を提案、実施します。3. 口腔領域の疾患に関する医科歯科連携の促進を図るため、関連領域との共同企画や関連学会等との共同研究等を企画、推進します。引き続き、これまで同様に口腔病理への皆様のご支援とご教授を頂ければ幸いです。
監事	2	高橋雅英	名古屋大学大学院医学系研究科附属	私は6年間理事として編集委員会委員長、広報委員会委員長、学術委員会委員長などを歴任し、病理学会の発展に尽力してまいりました。また2006年4月から2012年3月までPathology InternationalのEditor-in-Chiefとして魅力的な学会誌にすべく努力してきました。引き続き2年間監事として学会の発展に貢献する所存ですので、よろしく申し上げます。
		吉野 正	岡山大学医歯薬学総合研究科病理学	監事の役割は平成15年に大幅に強化されました。すなわち、従前の財産状況の監督に加えて、理事等の業務執行を監督する、ということになっています。わたくしは、支部長（理事）を4年間務めるとともに、今まで学会関係の各種委員等を歴任しております。また、教授になりましてから現在までの約半分の時間を管理職として過ごしてまいりました。これらの経験から社会的活動についてそれなりに経験しておりますし、病理学会の辿ってきた道筋を把握しております。現在の病理学会の運営は、かなり円滑になされているものと承知していますが、その路線から外れることなく、冷静に職責を果たすことにより、よい病理医の育成を主導する学会が継続発展することに尽力したいと存じます。